

問題を蒸し返す文大統領発言

どうしてこの期に及んで、というのが、文在寅韓国大統領の元徴用工に関する発言を聞いて、多くの日本人が抱いた偽らざる疑念である。一触即発の半島に身を置いて自国の安全をどう確保するか、国家の生死を賭した大事を前に「事の軽重」の判断に狂いが生じていないか。

一昨年末の日韓外相会談において慰安婦問題の「最終的かつ不可逆的な解決」が両者間で合意された。日本側は合意に誠実に対応する一方、韓国側にはこれを守る意思が薄い。ソウル日本大使館前の慰安婦像の撤去に韓国政府は関心を示さず、釜山の日本総領事館前に像の新たな設置を許し、設置は全国的な規模で広がりつつある。日本側は1965年の日韓請求権・経済協力協定において両国間の賠償請求権は「完全かつ最終的に解決された」という原則を順守、慰安婦問題を含めすべての個人請求権問題は解決済みという態度を一貫させてきた。同時に、韓国の民意にも配慮し、「アジア女

韓国よ生死賭す判断を誤るな

性基金」を95年に設置して「償い金」を、さらに一昨年の日韓合意に沿い10億円の拠出を閣議決定しすでに支払い済みである。しかし、文大統領はこの合意をよしとせず、日本に再交渉を要求しようという意向を貫き、合意過程の再検証を進めているという。

文大統領は就任100日目の記者会見において、日本統治時代に半島から動員された元徴用工には日本企業への個人請求権があると述べた。韓国政府は盧武鉉政権以来、慰安婦、原爆被害者、サハリン残留韓国人の3つは日韓請求権・経済協力協定の例外として個人請求権をもつとし、元徴用工については言及を避けてきたものの、今回の文大統領の発言である。2012年の大法院の判決以来、日本企業が賠償を命じられる判決が相次いでおり、この大統領発言は今後の各級裁判所の審理に多大な影響を与えることであろう。

正論



拓殖大学学事顧問 渡辺 利夫

日本糾弾にのめり込むときか

北朝鮮の核ミサイル恫喝、中国による不徹底な北朝鮮制裁、高度防衛ミサイル(THAD)追加配備への逡巡、米韓同盟の将来の不透明化など、韓国を取り巻く現下の諸状況は、韓国という国家の存続に関わるマグニチュードをもつ。存続の危機を招いた要因のすべてが韓国にあるとはいわない。しかし、韓国内の左派勢力、親北勢力の跳梁を許し、その勢力の分厚い支持により政権を手にし

たのが文大統領であることに疑問の余地はない。北朝鮮という挑発的な軍事勢力に対峙する自らの行動を省みることなく、あろうことかこの危機の最中で、連携を強化すべき日本への糾弾のレベルを上げるといっている。どう考えても理性的な姿勢とは思われない。半島危機の当事者意識の無残なまでの欠如である。顧みるべき歴史がある。「朝鮮国ノ完全無欠ナル独立自主ノ国タルコト」(日清講和条約第1条)を求めて、朝鮮の宗主国たる清国

に挑んでこれに勝利した日本が、朝鮮の近代化を期し政治改革に打って出たことがある。「甲午改革」である。しかし、日清戦争後の三国干渉により遼東半島の清国還付をのまされた日本を朝鮮は「恃むに足らず」とみてロシアに急接近。親露派が力を得て国王高宗をロシア公使館に移し、国王は公使館から詔勅を発するという屈辱を余儀なくされ(露館播遷)、朝鮮はロシアにより自在に操られる事態となって改革は頓挫した。情緒が政治決定を左右する怖さ

親日派・親露派、中国・日本・ロシア、国の内外にかかわらず強い社会的勢力、大なる国家になびいて、自ら危機の陥穽にはまっていこうという構図は、現在も往時と変わっていないのではないのか。甲午改革の失敗を目の当たりにした福澤諭吉は、明治30年10月7日付の『時事新報』の論説「事実を見る可し」にこう綴った。朝鮮人は「上下一般、共に偽君子の巢窟にして、一人として信を置くに足るものなきは、我輩が年来の経験に徴するも明白なり。左れば斯る国人に対して如何なる約束を結ぶも、背信違約は彼等の持前にして毫も意に介することなし。既に従来の国交際上にも屢々は実験したる所なれば、朝鮮人を相手の約束ならば最初より無効のもの覚悟して、事実上に自から実を収むるの外なきのみ」福澤の思想的影響を受けた金弘集を総理衙門(内閣総理大臣)とし、朴永孝、兪吉濬などを要職に配して進められた甲午改革の挫折は、福澤の朝鮮近代化の夢を最終的に打ち砕くものとなった。金弘集は総理衙門の座を追われるや、光化門外で民衆により撲殺され、屍は市中に晒されたという。韓国には国民情緒法がある。もちろん不文律だが、成文法を超越して、行方定めず揺らぐ国民の情緒が政治決定のありようを左右するという恐ろしさが確かにこの国にはある。福澤は明治18年の「脱亜論」の正当性を10年余を経て見定め、以来、朝鮮論の筆を折った。朝鮮研究を志す学究が急速に細やぎつつある日本の現状は、その再現なのかもしれない。(わたなべ としお)